

平成22年度事業計画について

はじめに

戦後最大と言われる不況は、回復のテンポが鈍いものの最悪の時期は脱したと伝えられています。航空需要の低迷も昨年末から僅かながら持ち直し、アジア地域、ロー・コスト・キャリア部門が健闘しているといえます。引き続き日本航空操縦士協会は、継続して航空の安全に資する役割を果たしていきます。当面の着目点は、公益法人制度の変更・政権交代による行政機能の変化・大手航空企業の経営破綻・航空需要の激減などが及ぼす影響です。また政府の事業仕分けは公益事業の質とコストに厳しく迫り、最近では公共サービスをNPO法人や市民活動に委ねる「新しい公共」といった構想が持ち上がっています。公益法人に対しても厳しい視線が注がれています。航空産業の構造が、大きく変化する時代を迎えています。

本協会は、引き続き航空の安全に資する事業を推進し、航空関係者の知識と能力を育み、大きな変化が顕在化してきた状況の下、事業の公益性を一段と高め、移行認定（公益認定）の手続きを進めます。あわせて財政の安定化を図り、事業に要するコストの効率化を進めます。

本協会が行なっている事業は、公共性を有していると判断できます。操縦士としての経験と知識を活かし、日本の空の安全と発展に資するために活動を続けています。安全情報の提供、制度の解説、知識の普及は空の安全に役立っています。行政との関わりは、安全講習会の開催や、安全関連検討会への委員の派遣、専門書の監修依頼など多岐に亘っています。今後も公益社団法人の役割を担う事と考えます。

事業を進める上で、安定した財政は欠かせません。協会の収入は会費と事業収入から成り立っています。新制度は収支相償が原則となっているので、公益目的事業は赤字か収支均衡を余儀なくされます。

本協会は、シンポジウムや委員会活動のように収入の伴わない活動と講習会・書籍の発刊・販売などの収入が発生する事業を運営しています。施設費、人件費、諸経費などの管理コストと事業に要する全ての費用を、会費のみで賄うことは相当厳しいといえます。

財政を安定させる為には、事業費に占める管理費の適度なバランスを保ち、更に事業内容の是正が課題となります。平成22年度の方針の中で、事務局体制の効率化と各事業の費用構造を最適化していきます。変化の激しい環境を迎え、会員数を維持し拡大していくことに努めていきます。

この様な環境を踏まえ、私たちは航空機の運航と空中における豊富な経験と培った知見を活かし、次の事業を行ないます。

航空の安全文化の普及と啓発

航空に対する理解を広げる目的で、各種行事を開催し、参加者に直接働きかけていきます。社会とりわけ航空に関心を持つ方々に、航空との出会いと触れ合いの場を提供し、航空に対する興味と期待に応えていきます。特に青少年へは、社会教育の一部を補完する意味で、航空という新たな世界を紹介し、健全な成長を応援します。関連する団体と協力し、各種イベント（行事）への参加者を募り、航空の実情と課題を社会に紹介し、参画した団体及び担当者相互で関係組織との連帯感を密にし、航空全体の「安全に資する」活力を育んでいきます。

イベント：SLJ (Sky Leisure Japan) / 小型航空機セーフティーセミナー
航空安全セミナー / 青少年航空教室 (Yes I Can)

シンポジウム：ATS / 乗員養成 / 航空気象

地域活性化：北海道 / 東日本 / 中部 / 西日本 / 九州 / 沖縄

安全対策（制度と運用）

航空局、関連団体に係わる委員会、検討会などには引き続き担当者を派遣し、経験に基づいた知識と培っ

た知見を提供していきます。安全対策、運航方式、国家試験問題（英語能力、学科試験）などを検討するに当たり、実際の運航に即した内容が反映されるように努力します。航空関係者と情報交換を密に保ち、適切な情報の認識をもとに、各種の対策に積極的に参加していきます。

航空安全講習会 / 航空英語能力試験問題 / 学科試験問題 / AIM 関連事業 / 航空法英語版 /
区分航空図 / 航空医学 / 航空気象 / 航空関連の会議への参加

情報伝達と提供

空の安全を担保するために、航空に関する情報を広く多くの人々に伝えていきます。会員への情報提供は、パイロット誌・ホームページなどを活用します。安全かつ経済性に富んだ健全な航空を標榜し、情報伝達には会員が窓口となります。

ホーム・ページ / マスコミ・ミーティング / Pilot 誌 / スタディーガイド / パイロットハンドブック /
Take Off / Pilot Guidance / ヘリコプター操縦教本 / 空中衝突 / 航空気象

技能習熟の支援

容易に技能育成の場が持てる環境を整えます。新たな機材に更新し、訓練スペースを新設しました。経験豊富な操縦士が操縦体験・計器飛行方式等の教育訓練を担当します。F.T.D（飛行訓練装置）を使用し、知識と技能の向上を計るための教育訓練を提供し、飛行の安全に貢献していきます。技能のリフレッシュ及び確認を訓練することにより資格の維持、あるいは新たな雇用機会へのチャレンジを支援します。

知識（機長養成講習会） 技術（FTD 訓練）

情報収集及び調査研究

経験と実績の集大成を図り、着実に「運航の信頼性」を向上させていくことこそ我々操縦士の使命です。そのために操縦士の基礎データ（操縦士数・技能要件・訓練内容・組織など）を纏め、記録として遺す作業を進めます。操縦士の世界を客観的な指標をもとに表現できること、文字として遺していくことは、操縦士の風土作りに貢献します。企業あるいは事業分野などの垣根がない、私たちの協会の役割といえます。

国際機関を活用して世界的な情報を収集し、また関係者が定例的に集う場（懇談会や委員会など）を確保し、状況判断に役立てていきます。

事故調査：研修 / ISASI

国 際：FAI（総会） / FAI 分科会 / FSF 資料の入手と翻訳 / 航空医学海外調査

その他、本協会の運営に必要な事項

長期的な目標を見失うことなく、現実的な改善と地道な活動を進めます。操縦士が持つ経験と培った知見を活かすことに加え、正確な判断材料を持つための調査活動に注力した運営を心掛けていきます。

理事会は運営全体の企画調整を行うと共に、都度の事業を執行するに当たり、状況に応じた裁量と機動力を常務理事会が担い、活動の最適化を図ります。

委員会は、情報の整理と運航経験に裏打ちされた意見などを纏めて、実態に見合った内容を事業に反映させる役割を担います。その為に多くの操縦士と航空関係者の参加を呼びかけていきます。

事務局は、日常活動についての連絡・確認の役割を確実に果たし、タイムリーかつ継続した活動となるように事業を支えていきます。

本協会の活動は、関係者の弛まぬ努力と相互の信頼関係が原動力となります。空域の安全確保、運航環境の整備・改善、参加者の情報交換、地域との交流などに力を注ぎ、人の和を育み、共に「汗を流す」なかで信頼の輪を拡げていきます。一步一步確実に活動を積み上げていくために、毎年行う恒例行事の定着化を図ります。